

東軍自取  
謀也

十月十八日

156P

至急

軍参謀長

ス電茅一六六號

龜山外務省参事官ハ退去ヲ命ゼラシ昨日罷行機

ニテ京城出發セリト

小官ハ彼ノ出發ヲ知ラス退去ノイザサ等知ラ得カリニラ  
遺憾トス

17.14.20  
17.14.50  
|  
17.15.00

京城



茅二組

1568

至急

軍参謀長

又電第一六五號

17.14.15  
19.14.15



京城

第一組

1569

三八度以北ニ於ケル軍官民ノ救出ニ関シテハ赤軍ノ手ヲ以テス  
ルモ取付ク島ヲテ現況ナリ東京政府ハ自ラ為スベキ手段ヲ  
キヲ以テ之ヲ現地ニ於テ解決昌トノ意向ニヤニ聞クモ東京ガ  
斯ル空氣ニテハ現地交渉ハ望ミ得アルベシ、  
亦官明八日一時ノ朕領事館ニテリ會見スル事トセリ

終

普通

軍參謀長

一六〇部連電茅二條

軍隊輸送列車混乗已一彼邦人釜山滞留之慘狀ヲ呈シ  
了、風潮有テ人心安カラズ、對軍不儀、聲有リ  
其真相茲ニ將來見添、通報相類之度

17.12.45  
17.14.30

茅二組

裡星

1570

暴風、為、掃、當、先  
事、一、評、亮、心、下

至急

軍參謀長

丁酉一六日現在

天安集結邦人二一六九二名ナリ

17. 11. 00

17. 14. 30

京城師管区連絡班長

天安

中  
幕二組

1571

朱呈急

1月14日

1月14日

第二組

早參謀長

麗水

麗水連隊第二五號

刺參連隊三九號

第一次復員上同將之實施者八一名

十九日現在七五名 應召家族 二家族

麗水哥羅連隊班長

決

昨隊軍人及家族等再元召者家族校報告件

謝

普通

軍參謀長

10月11日

10月11日

茅二組

裡  
里

一六〇師連連第一號

朝參電第三九號迄

十五目現在休暇捕人一五二名同家族數約一〇〇名

外二軒他部隊三處最近再應召者家族數約

一〇〇名

終

朝參電第三九號迄

師隊軍人及家族發再召者家族數報告件

普通

10月17日10時5分

11時10分

(6)

第二組

中

軍參謀長

京城

又電第一六三號

米軍迅速ニ南鮮ニ進駐シ希望シ其後進駐計  
画ヲ照会シタルニ對シ左ノ如ク回答アリ

一、南部朝鮮進駐ニ關シ一〇月一二日附キカン第二三號

参照

二、概ネ一〇月二〇日ヲ目途トシ日本軍ノ警備スル管理ニ  
全主要都市及全主要施設ハ米軍之ヲ占領シ  
少數ノ例外ヲ除キ南鮮ニ於テ日本軍ノ責任解除ヲ  
完了ス 地方進駐部隊ノ兵力増強ハ一〇月二〇日ヲ



二月五日迄 續行スルモノトシ 二月五日ヲ以テ進駐ヲ完了  
スルモノトシ

三、軍政廳職員ハ二月五日迄ニ前地方政廳ノ監督

權ヲ握取スルモノトテ考セラル

又一面地方米軍指揮官ハ平和ヲ確保シ法及秩序  
ヲ維持スルニ必要ナル手段ヲ取ルモノトス

終

普通

10月17日 10時30分

11時30分

(5)

第二組

軍参謀長

京城参

又電第一六二號

米軍有左記通牒アリ

一九四五年十月七日、ユースン村ノ十字路ニ於テ

日本軍自動車第五四號ト衝突シ一朝鮮人少女即死

セリ 非公式調査ニ依リ、當該事件ハ不可避的モデ

アリ化貨車ノ操縦手ニハ何ノ責任モ無キト明ラサレタルモ、

現場ニアル朝鮮人ハ非常ニ奮激シ朝鮮人有力者ノ努力

ニ依リ辛クシテ操縦手及乗員ニ対シ群衆ノ暴行ヲ

制止スル次第ナリ

二 前述、如ク今事件ハ恐ラフ不可避的ナリモ將來ニ於テ  
此種事件ハ重大ナル報復ヲ生ズ。特ニ避難地ニ於  
テ然リトス。從ツテ行動スハ少シモ人ニ障害與フ  
恐ルル場合ニ於テ自動車ノ運轉ハ最善ノ注意ヲ  
拂フ如ク示達相成度 指令ニ

終

至急

4

茅三組

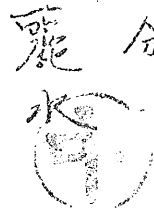
軍參謀長

10月17日

11時10分

10月17日

11時40分



麗水電第ニニ號

朝參電第ニニ號受領セリ麗水要塞連絡班(兵器軍需品)

ノ警備兵力ヲ含ムニニ七名ニシテ麗水ニアリ兵力ノ一部陸山

島及び南海島ニアリ

麗水要塞連絡班長

終

1578

普通

中 第 二 組

10月 17日 12時 1分  
10月 17日 12時 15分

軍 經 理 部 長

光 井

朝 終 變 第 二 九 九 號 送

一 當 那 管 區 八 主 力 出 發 濟 二 三 師 管 區 保 有 前 渡 資 金

總 額 不 明 十 一

二 連 終 班 卜 字 現 在 保 有 前 渡 資 金 左 如 下

雅 司 令 部 二 〇 萬 円 步 兵 第 一 補 充 隊 三 萬 円

步 兵 補 充 隊 九 六 五 円 工 兵 補 充 隊 三 〇 三 円

通 信 補 充 隊 七 千 円 輜 重 兵 補 充 隊 二 五 〇 〇 円

光 井 兵 庫 部 一 萬 円 光 井 陸 軍 病 院 八 萬 円

合 計 三 四 一 三 三 七 円 光 井 連 終 班 長 備



多岐本電

終

至急 十月十日一九五五年十月十八日。八三。一組

休做 運参謀長

休做

本島ニ向ヒアル

当部隊

編成音廣

(主計大尉 殿澤進吾)

大尉

(秋原)

主計少尉

スガキヲシユル抄

(京城) 撫久井

主計少尉 (京畿道ウチン) ハ

内地ニ帰還

セレルコトナク復員業務ヤホシ

繼續絶対必西女トスルニ付

連ニ部隊ニ帰還

セレル如ク手既相煩度

至急

10月  
17日  
1時  
20分

16

10月  
17日  
1時  
30分

第二組

軍參謀長

護朝参電第四號

護朝連絡班早川参謀傳へる度

去月二十九日釜山沖ニテ遭難した我克船ニレイコウ金融  
組合理事ハシモトヨシノリ氏及モテウ郵便局長ノ家族  
了リ是ハ安否至急通報願フ尚此ニ次テ全部ノ生存  
者ノ氏名調査ノ上返

日高参謀

終

井邑

1582



至急

經理部長

經第 一九號

朝參電第 二九六號 送

差當 一五七〇 萬円 利用 之差 支入 無シ

進而 本經費 八別 整理 之 置ト 共ニ 資余 途 迄ニ 總所 要

見込 額 至急 送電 相成 度

受付

17.15.20  
17.20.00

第 二 組

東京

次官

初 引上 取 為 経 費

1583

至急

10月17日17時40分

18時20分

(15)

第一組

軍經理部長

東京

經主發電第八二號

鎮西經電第一五三號返

朝鮮軍博多連絡所(田中)大尉傳ハシ度

朝鮮ヨリ帰還スル部隊ノ私金ヲ官金ニ返納シ内地ニ於テハ

排戻ノ件ヲ實行中止セシメテアリ 尚退職賞與及俸給

八九一〇月三月分ハ上陸地ニ於テ支給スル事ニ定ムルヲ

以テ朝鮮ニ返納スルモノハ復原地ニ支給スルモノトス

之カ所要資金ハ西部軍ヨリサンジコセシ度

尚細部ハ黒田少佐ニ連絡済

(通電先)

西部

朝鮮

各部隊長宛

手山へ

終

11584

情報

生普通

10 17 17 50

軍参謀長

一六。勅令電

一三日米軍憲兵隊 (クレイ)

金堤ニ来リ鮮人團戸体ノ活動ヲ禁止シ日本人

ヨリ強奪セル約二万七千圓(日本人ニ返還セズ)

及警察保管兵器ヲ接收シ全州ニ帰還セリ)

19

10 17 18 30

裡星

第二組

終  
11

至急 10月17日16時

18時

叩 第一組

軍經理部長

東京

經主發電第八〇號  
朝經電第三二二號返

五億三千万円ハ貴軍ノ九月末ニ於ケル前渡資金残額  
(前隸下部隊ノ分ヲ含ム)ノ當方ニ於テ推定額(貴軍)ノ月  
所要八千万円及終戦後交付シタル大部(合計)ニシテ  
聯合軍司令部ニ要求ニ依リ取急キ提出セシムルヲ以テ

諒承セシメ度

尚九月末日ノ現實ノ残額(隸下部隊ノ分ヲ含ム)調査ノ上  
當方ニ報告セシメ度

三三三号ハ委託資金ニ付シテ

終

至急

11月 19日 19時 20分

20

10月 19日 19時 20分

第2組

軍参謀長

震水

電要電第29號

一、震水要塞重砲兵聯隊南海砲台殘置員

コシ少尉以下七名ハ朝鮮暴民二十五日早朝

拉致セラレタリ

二、米軍ノ雅勤ヨリ本日南海砲台救出ノ多ク出合

中ナリ

三、詳細ハ不明ナルモ判明次第報告ス

震水要塞連絡隊長

終

緊急

14 第一組

16月 16時 分

16月 16時 分

朝鮮軍司令部  
臨時軍法會議

上席法務官

東京

法電第六八號

法

本日内牒通り大赦令、減刑令及ビラフ憲令

交付セラレ合マテ特別トクニヤ特別減刑及ビ特別

復讐

行ハセラルトナレリ尚恩赦施行心得ニ

付テ之内牒通り定ムラレタリノ恩赦令交付非決行

通電先

各軍管区、船舶、ヤスシ、艦、備、支那總軍、第三總軍

生野正志

軍医部長

護国軍第4号

17.14.30. 17.15.30.

井邑 第13組

一 携行衛生材料ハ軍医携行携行袋ニ軍医  
 察震袋四十具縮帶一具反斯ケルシ震  
 二具ノホカ三七個ナリ 詳細ニラタリ  
 合表ヨリ作成スルニシキ至急送  
 引渡シ目錄ハステニ作成シテ  
 ル 總相袋四ツハ個ニシテ器械ノ品目表ヲ附  
 エアリ引渡シ藥物消耗品ノ統合表ハ必要ナ  
 ナキヤ至急送

終

1589

Handwritten text at the top right, possibly a name or title.

12129  
12131  
12145  
1215

(2)

第1組

刊

軍一軍司令部

第1師司令部

第2師司令部

第3師司令部

第4師司令部

第11軍司令部

第1師司令部

1590



18190  
18191  
18192  
18193

18190  
18191  
18192  
18193

(6)

18190  
18191  
18192  
18193

18190  
18191  
18192  
18193

18190  
18191  
18192  
18193

18190  
18191  
18192  
18193

1591

18190  
18191  
18192  
18193

18190  
18191  
18192  
18193



7.10.14.10

三  
一  
一  
一  
二  
一  
事件の解決あり

豊後藩記録

1593

冬

普通 十月八日

軍参謀長

一電第六七號

遠藤政務總監ハ昨日京城台發定路帰郷セリ

邦人引揚ハニ関シ昨日朝鮮事務本部日本人

正話會交通局関係主腦者ヲ會同シ軍ニ企図ヲ

内示シ準備ニ着手セシム特ニ當連絡部擔任地域タル

京畿海原道方面引揚ハニ関シテハ御期待ニ添フ

如ク期スアリ

二・八



一組

京城

終

1594

知

緊急

軍參謀長

陸普電第444號

17.20.00  
15.10.00

聯合軍側ノ要求モ有リ俘虜トナリ帰還シタル軍人軍属

ハ一般復員軍人軍属ト同様ニ取扱ヘル事ニ決定セラレタ

ルニ付現地ニ於テ該當者ノ返還ヲ受ケタル時ハ所要ノ調

査指導ヲ行ヒタル後右趣旨ニ依リ處理有度

但ニ一般將兵ニ對スル指導ノ關係ニ應ジ現地ノ情况ニ即

適宜ノ考慮ヲ加ヘラレ度

(通電先) 榮、威、築、高、備、輝、膳、

次官

東京

中

1595

訓

果急

17. 19. 10.

18. 09. 40.

14)

一組

軍參謀長

東京

陸普電笑(四一平)

外地部隊ノ金銀物品ノ出納ニ關スル証憑書類及  
帳簿ハ従来ノ規定ヲ拘極力之ヲ保存シ尚返還  
當リテハ成之得限リ携行スルコト取計レ相度

通電先

大部 臺灣、朝鮮、支那、南方、騰輝

次官

終

至急

十月十日

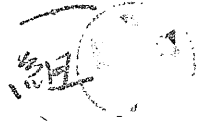
〇九四

了

軍參謀長

陸普電第四三號

東京



外地部隊所屬ノ者ノ戰時名簿ニシテ現ニ保管シ

アルモノハ陸密第五九。八號外地部隊復員要領

細則第六條第一號ノ規定ニ係ラズ扱ヒ之ヲ移行

帰還スル事ニ定タルニ依命

通電先 各軍管區 内地各師管區

及那南方船舶備騰

副官

副官

輸送

至急電報

受付(原書) 一三二〇

軍参謀長

釜山

一九日ヨリ二一日マデ、四日間ハ釜山滞留邦人

(二二〇名)ヲ一掃スルニ付二一日迄他ノ地區ヲ

、鉄道輸送中止セラレ度

釜山運輸部 長